

令和7年度運営評議会

食品保健機能研究センター



NIBN

National
Institutes of
Biomedical Innovation, Health and
Nutrition

『食品保健機能研究センター』

▶ 背景・社会的意義等

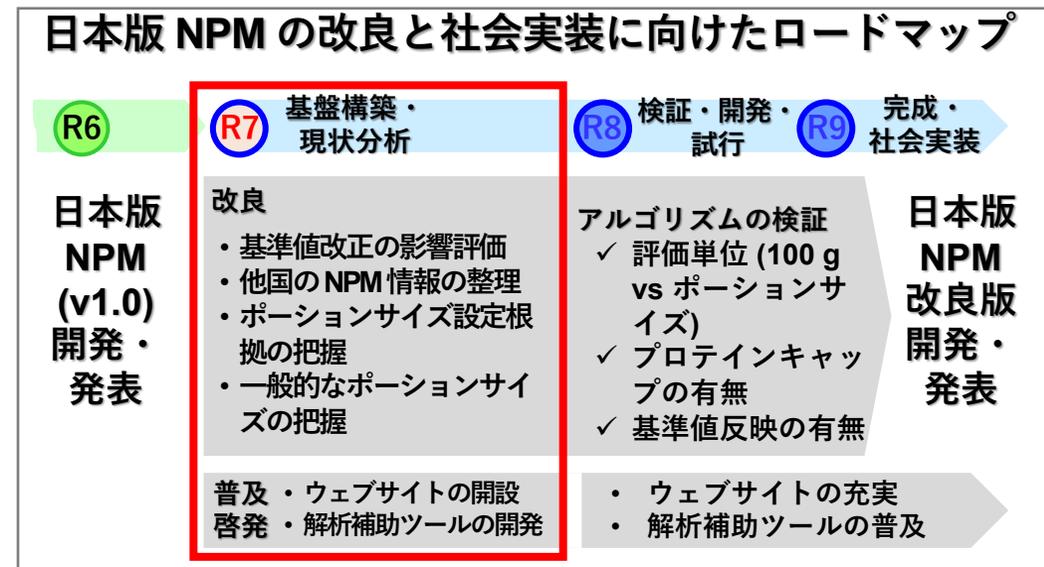
- 食品の栄養表示は、健康増進に資する食品を消費者が自ら選択するために重要な情報源である。**栄養表示の信頼性を担保するために、法定業務を遂行**し、そこで得られた知見等を基に食品栄養行政に資する調査・研究を実施する。
- 健康寿命の延伸に資するために、食事を踏まえた健康食品の適正利用に向けて、**健康食品等に利用される素材及び成分について、利用実態を踏まえた健康影響評価に関する調査研究を実施し、エビデンスを構築**する。
- 「健康食品」による健康被害を防止し、確かな健康情報を普及・社会実装するために、**健康食品の情報を安全性・有効性情報データベースに収集・蓄積し国民に提供**する。

▶ 目標・令和7年度実績・成果・課題

- **1,000製品の実証検証により表示値の信頼性を確保**した。**日本版栄養プロファイリングモデル（NPM）改良**に向け基準値改正の影響を確認した。
- 諸外国の栄養調査で健康食品由来の栄養素等摂取量が政策や評価に活用されている実態を把握し、日本での手法検討を開始した。
- 「健康食品」の素材情報データベースを刷新し、公開した。

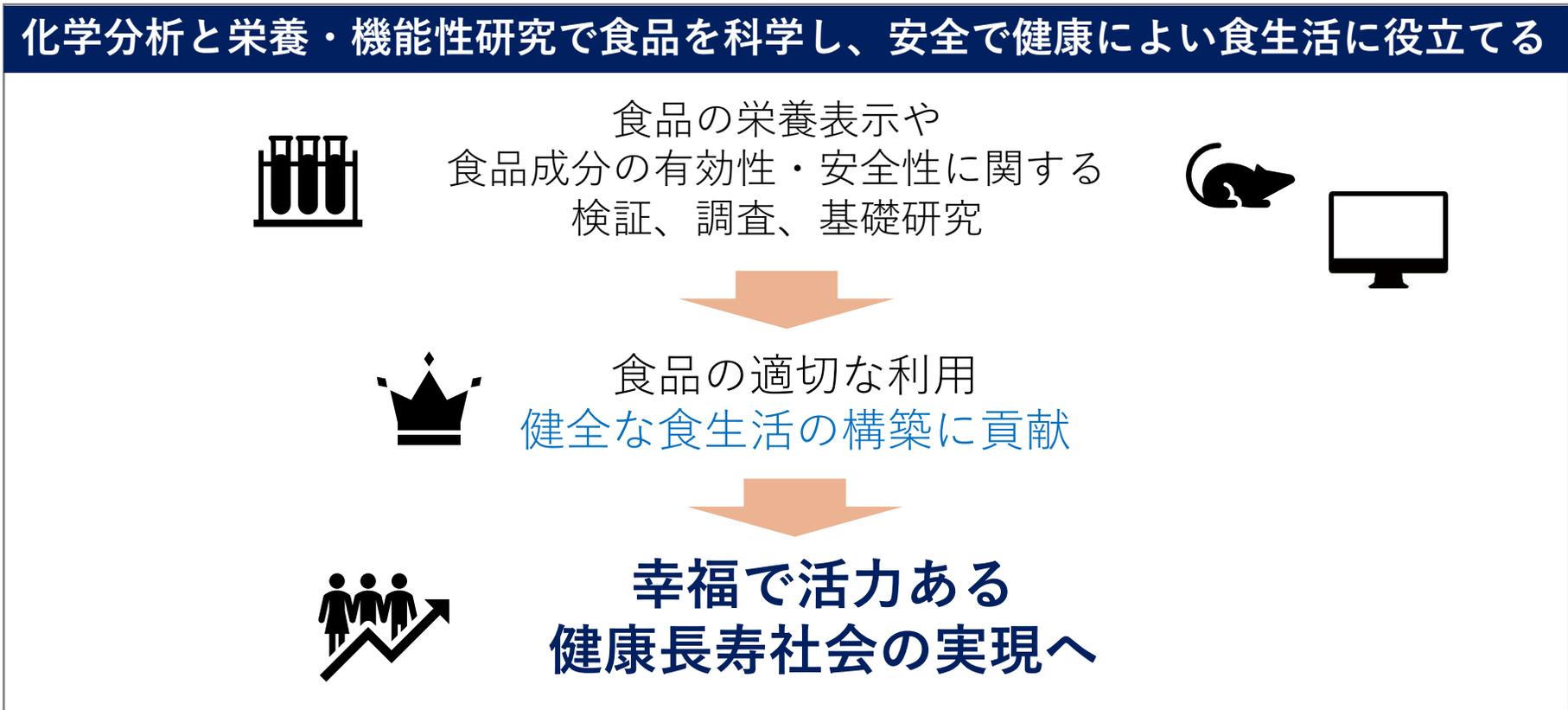
▶ ポイント

- 機能性表示食品について、昨年度の約10倍の買上げ試験を実施した。
- 日本の食生活・食文化を踏まえた**500件の料理レシピで日本版NPM料理版の検証**を進め、改良に向けた課題を示した。
- **健康食品の安全性・有効性に関する文献情報を**、掲載基準と明示して更新・**収載した新規素材情報データベースを公開**した。



『食品保健機能研究センター』のミッション

- 法律に基づき 収去された食品の栄養成分分析や特別用途食品の許可等に係る試験業務の実施
- 食品表示の信頼性確保、食品の安全性および機能性の解明とそれらに基づく健康的な食生活の提案、および「健康食品」に関する情報提供等を通じた健全な食生活のための食環境の整備



厚生労働省、消費者庁、内閣府等と連携して
業務・研究を遂行中

『食品保健機能研究センター』の研究プロジェクト（令和7年度）



センター長
小堀 真珠子

食品分析・表示研究室



室長
竹林 純



主任研究員
鈴木 一平

食品健康情報研究室



主任研究員 布目 真梨



研究員 中舘 美佐子

食品安全・機能研究室



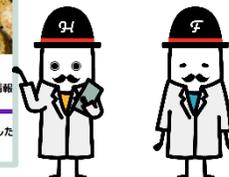
副センター長／室長
東泉 裕子

食品の有効性・安全性の検証



食事を踏まえた健康食品の適正利用に資する研究

食のリスクコミュニケーション推進確保



『食品分析・表示研究室』：機能性表示食品等の表示値に関する拡大調査に対応

特別用途食品、特定保健用食品(トクホ)、機能性表示食品等に含まれる栄養成分や関与成分等の量を実測→【ゴール】栄養成分表示値の信頼性を検証

種類	R7年度	(参考) R6年度
特別用途食品 (特定保健用食品を除く)	2品	2品
特定保健用食品	13品	15品
機能性表示食品	985品	83品

収去試験の前段階として実施：(一財)日本食品分析センターと消費者庁から共同受託

関連業務・研究

- 特別用途食品等の許可試験 (2件を的確に実施)
- プロテインバーを検体とした栄養成分検査に関する外部精度管理調査 (74機関参加)
- 核磁気共鳴 (TD-NMR) 法を用いた新規脂質定量法の実用性を実証 (論文執筆中)

機能性表示食品については、消費者庁から、調査結果が製品名を含めて全面公開に

機能性表示食品に係る機能性関与成分に関する検証事業報告書

令和6年度(2025年10月14日掲載)

- 📄 [令和6年度買上調査の結果\(概要\)\[PDF:168KB\]](#)
- 📄 [令和6年度 特別用途食品\(特定保健用食品を除く。\)に係る栄養成分等、特定保健用食品に係る関与成分及び機能性表示食品に係る機能性関与成分に関する検証事業\(買上調査\)\[PDF:248KB\]](#)

R6年度調査では、機能性表示食品1検体が、表示値を下回る結果に (2機関で再現性を検証)

製品中の機能性関与成分の量が申請等資料に記載された含有量を下回る分析結果となったことが判明したため、当該商品の届出者を所管する自治体に情報回付した。

なお、当該届出者は当該ロットを含め当該商品の販売を中止し、届出を撤回したことを確認した。

消費者が広く利用可能な情報源である「栄養表示」の信頼性確保に貢献

『食品分析・表示、食品安全・機能研究室』:日本版栄養プロファイリングモデルの検証・普及

栄養プロファイリングモデル (NPM):

- 食品の栄養価を評価する仕組み
- 食品開発や食品選択に資するツール
- 諸外国では広く社会実装

日本の現状

- 公的なNPMはない
- 独自の食文化・栄養課題



令和6年度
日本版NPM加工食品版、料理版を開発
Nutrients, 16, 3026 (2024); Nutrients, 16, 3012 (2024)
 (厚生労働行政推進調査事業)

令和7 - 8年度
日本版NPMの検証研究・普及啓発

- 検証: 基準値の改正/他国のNPM/ポーションサイズ/プロテインキャップ
- 普及: ウェブサイト/解析補助ツール

令和9年度
日本版NPMの改良版を発表 (予定)
 (厚生労働行政推進調査事業)

加工食品版の検証

■ 基準値改正の影響

食事摂取基準2025年版に伴う基準値改定

ナトリウム	2756 mg (健康日本21 (第三次))	→	2700 mg (栄養素等表示基準値, 2025)
たんぱく質	81 g (栄養素等表示基準値, 2015)	→	85 g (栄養素等表示基準値, 2025)
食物繊維	19 g (栄養素等表示基準値, 2015)	→	20 g (栄養素等表示基準値, 2025)

- 最終スコアへの影響 → 変化なし 74 %、**変動 25 %**
- ランクへの影響 → 変化なし 78 %、**変動 12 %**

基準値改定をアルゴリズムに反映すると
 少なからぬ影響が生じる

普及・啓発

■ ウェブサイトの開設 <https://www.nibn.go.jp/eiken/npmj/>

- 消費者及び事業者向けに NPM を解説

■ 解析補助ツール

- 食品成分データからNPM評価を行うExcelマクロを開発

料理版の検証

■ 日本版NPMの適用性

500件の料理を評価



出典: Cookpad (<https://cookpad.com/jp>)

■ 検証に必要な栄養価計算を実施

日本の食文化を反映した多様な料理レシピ740件

今年度合計1000件目標

- 健康的な日本料理 約 200件
- 中食・外食料理 約 140件
- 郷土料理 約 300件(今年度650件予定)

「食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト」

健康に配慮した加工食品や料理レシピを開発するための道標となる日本版 NPM の実効性を向上し、食環境整備に寄与

『食品安全・機能研究室』：健康食品摂取量調査手法の整理－日本での提案を目指して－

内閣府食品安全委員会「食品健康影響評価技術研究」

日本の現状

- 日本人の3割以上が健康食品を利用
- 国民健康・栄養調査は健康食品からの栄養素等は未把握

課題 健康食品由来の栄養素・食品添加物摂取量を推計できない

令和7年度

海外の国を代表する栄養調査で健康食品を調査した結果、以下の点から、健康食品（サプリメント）由来の栄養素摂取量が、**栄養政策や食品のリスク評価に活用されている実態**が明らかとなった。

- 多くの国で、**サプリメント由来のビタミン・ミネラル摂取量が把握され、栄養政策に活用されていた**
- 英国およびフランスでは、**食品のリスク評価にも活用されていた**
- 調査には、国の機関が運用する**サプリメントデータベースが活用されていた**

令和8年度

- 食事を踏まえた、健康食品からの摂取量推計のための食事調査方法（案）の公表**
- 健康食品データベース案の提案

海外における国を代表する栄養調査における健康食品の調査結果概要（10ヵ国のうち一部抜粋）

調査対象国	調査方法	サプリメント把握範囲	サプリメント摂取量データの活用用途
アメリカ合衆国 (the United States)	24時間思い出し法 (2日間)	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン、ミネラル、ハーブ系 過去30日間の使用頻度 サプリメントのデータベースあり 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養状態の評価／食事摂取基準
カナダ (Canada)	24時間思い出し法	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン・ミネラル、葉酸、ビタミンD 過去1か月間 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養ガイドライン策定 母親への葉酸・鉄補給のガイドライン
イギリス (the United Kingdom)	24時間思い出し法	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン、ミネラル 過去1年間 	<ul style="list-style-type: none"> リスク評価／安全上限量設定
フランス (France)	食事記録法 24時間思い出し法	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン、ミネラル 過去1～12か月の間に最も利用したサプリメント5種類（サプリメントの容器包装も回収） 	<ul style="list-style-type: none"> 食品リスク評価 健康・食料政策 消費者向け広報活動
ドイツ (Germany)	食事歴法 24時間思い出し法	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン、ミネラル 過去1か月 サプリメントのデータベースあり 	<ul style="list-style-type: none"> サプリメントからの栄養素等摂取量・栄養状態の把握 消費者教育／生活習慣病予防プログラムの策定
オーストラリア (Australia)	24時間思い出し法	<ul style="list-style-type: none"> ビタミン・ミネラル 国内流通サプリメント（網羅的）容器に付された製品コードを用いてサプリメントの種類を報告 過去24時間 サプリメントのデータベースあり 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養政策策定

東泉ら、日本栄養・食糧学会誌. 79(1).2025. に掲載予定

本調査に基づき、日本における健康食品由来の栄養素等摂取量の調査手法を開発・提案して、栄養政策・食品リスク評価への活用へ貢献

『食品健康情報研究室』：健康食品の「素材情報データベース」の公開

消費者庁 委託事業及び補助金にて作成



【背景】2023年3月より**安全性**情報の提供を休止。
信頼できる情報提供が求められていた。

【成果】**2025年6月に新規素材情報データベースを公開**
特徴：**3つのデータベースで構成（医師、薬剤師、栄養士等の利用に対応）、掲載基準を明記、健康食品201素材を収載（素材名（学名）、概要（食薬区分等）、収載情報（これまでに約1500文献を精査、要約約300件を作成）を更新）**

説明会・情報提供：日本医師会、日本医学会、日本薬剤師会、日本栄養士会、日本保健薬局協会、アドバイザースタッフ養成機関等

SNSによる普及啓発を実施



▼素材情報データベース <https://hfnet.nibn.go.jp/material-infodb/>

素材情報データベースの刷新により、健康食品による健康被害防止、機能性表示食品の信頼性向上に貢献

『食品保健機能研究センター』における今後の取組

- 法律に基づき収去された食品の栄養成分分析や特別用途食品の許可等に係る試験業務の実施
- 食品表示の信頼性確保、食品の安全性や機能性の検証および情報提供等を通じた健全な食生活のための食環境の整備

▶ 食品分析・表示研究室：栄養表示の信頼性確保

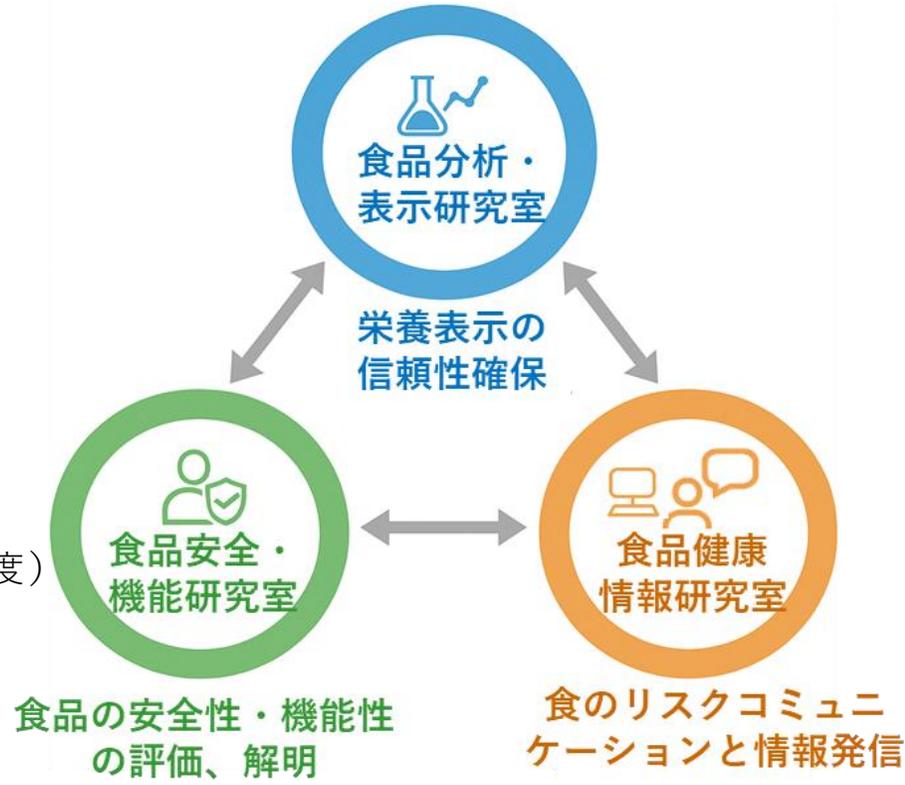
- 法令に基づく分析業務の遂行。分析機関に対する外部精度管理調査の実施
- 日本版栄養プロファイリングモデルを検証し、改良版を公開（R9年度）
- 公定法を代替する分析法ための「妥当性確認ガイドライン(案)」を作成（R8年度）

▶ 食品安全・機能研究室：食品の安全性・機能性の評価、解明

- 健康食品摂取量調査：健康食品の摂取量評価手法案の公表（R8年度）
- 日本版栄養プロファイリングモデル（料理版）の検証を進め、改良版を公開（R9年度）
- 尿中マーカーを活用した食事バランス適正化技術を開発（R8-9年度）

▶ 食品健康情報研究室：食のリスクコミュニケーションと情報発信

- 情報収集の自動化等を介した健康食品の素材情報データベースの継続運用体制の確立（R9年度）
- AIチャットボットの導入等による情報サイト（HFネット）の普及啓発（R8年度）



健全な食生活のための食環境の整備
健康寿命延伸に寄与する食生活の提案